

IV 資料編

■ 1 大分県地震被害想定調査報告（概要）

大分県地震津波被害想定調査報告について（概要）

1. 調査の目的

本業務は、地震調査研究推進本部（以下、「地震本部」という。）及び地震調査委員会の連名で公表された「中央構造線断層帯（金剛山地東縁一由布院）の長期評価（第二版）（平成29年12月）」（以下、「長期評価」という。）に伴う本県への影響を、地震動、津波などの予測を行うとともに、県内の現況資料の収集・整理を行い、地震動等に起因する各種の被害を想定し、地域防災計画の修正及び地震防災対策の基礎資料を得ることを目的とする。平成20年3月に阪神淡路大震災規模を想定し、主に直下型地震（活断層型地震）に係る地震被害想定調査（以下「前々回調査」という。）を行い、防災・減災対策を推進してきたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を受け、平成25年3月に本県において津波被害が想定される以下の3つの震源・波源域に関する被害想定調査（以下「前回調査」という）を改めて行った。

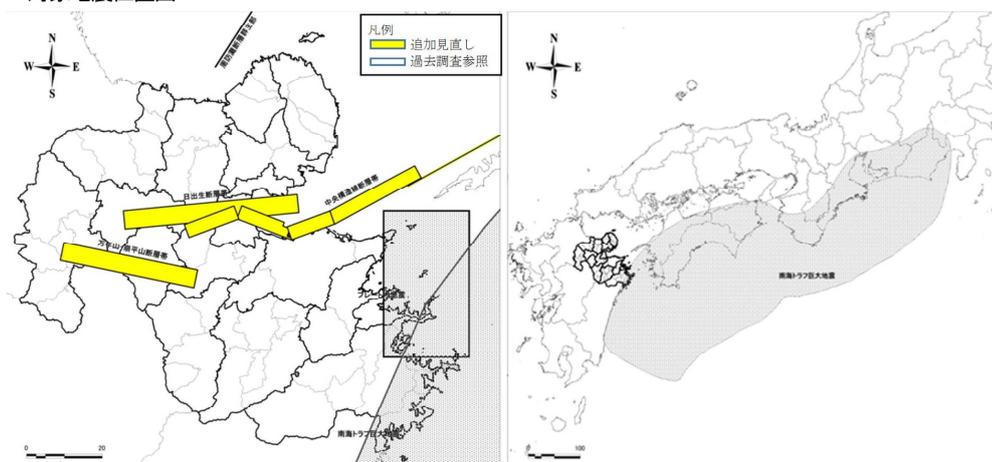
これらの調査は、地震・津波による具体的な人的・物的被害を推計し、避難所運営、備蓄物資、災害廃棄物の処理用地の確保など今後の県・市町村の防災・減災対策の資料とするもの。

なお、今回の調査は、地震本部により長期評価の見直しが行われた断層で起こる地震による被害を中心に検討した。そのため、それ以外の地震に関する自然災害予測結果は前回及び前々回調査結果を踏襲するとともに、津波による被害は前回調査を踏襲して、引き続き防災・減災対策を行う。

- ① 中央構造線断層帯による地震
- ② 日出生断層帯による地震
- ③ 万年山-崩平山断層帯による地震
- ④ 南海トラフの巨大地震（前回調査の対象地震）
- ⑤ 周防灘断層群西部による地震（前回調査の対象地震）
- ⑥ プレート内地震（前々回調査の対象地震）

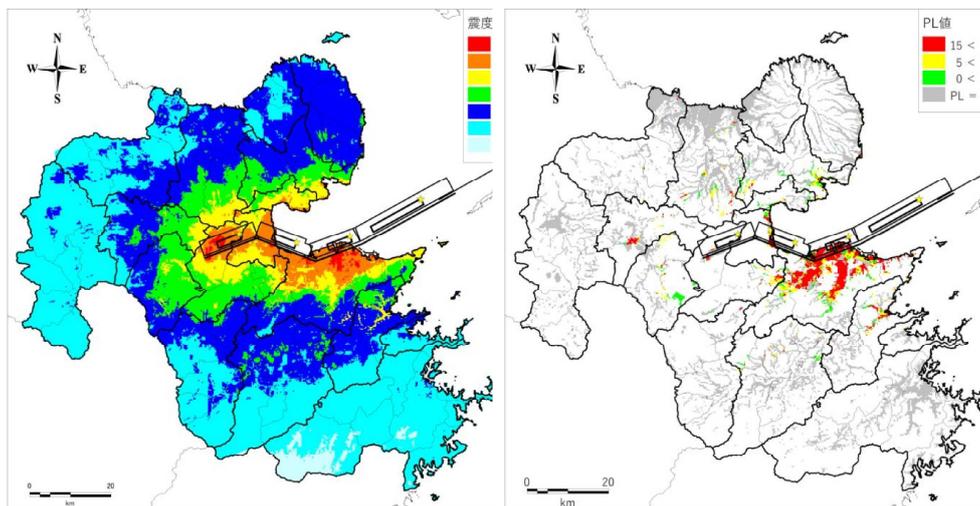
※本県で次に発生する地震・津波が、今回想定した最大クラスのものというものではない。また、参考として載せている地震調査研究推進本部（文部科学省に設置されている政府の特別機関）の発生確率についても、最大クラスの想定地震・津波の発生確率ではない。

(1) 対象地震位置図



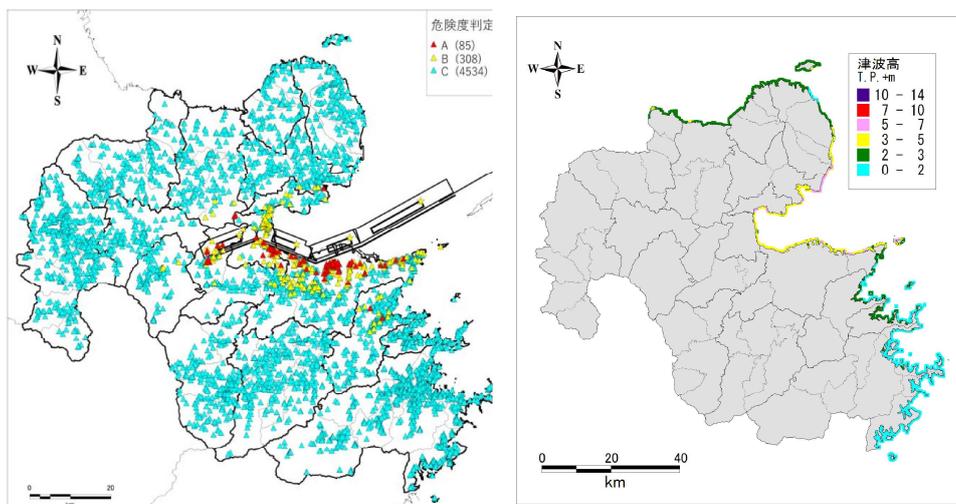
(2) 地震ごとの地表震度分布、液状化危険度分布、急傾斜地地震時危険度分布及び最大津波高分布

① 中央構造線断層帯による地震



地表震度分布

液状化危険度分布図

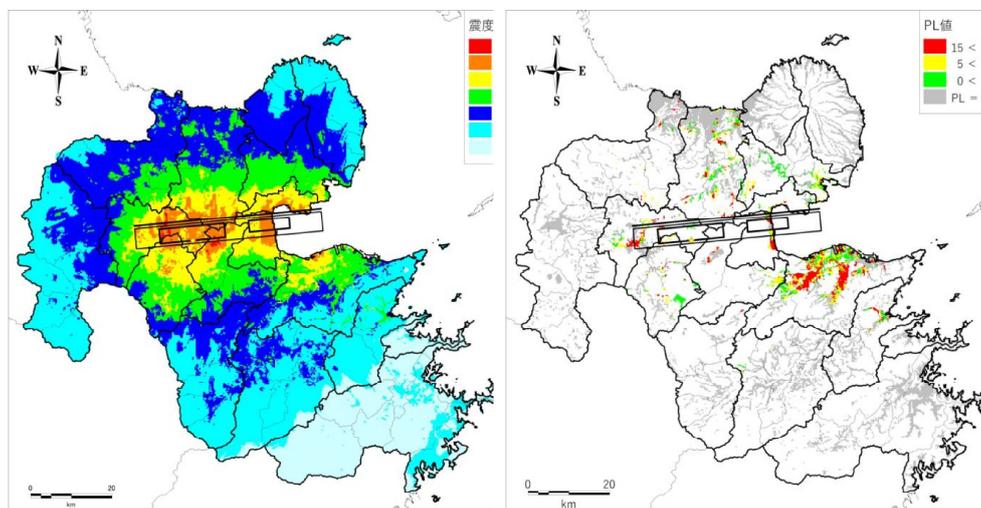


急傾斜地地震時危険度分布

最大津波高分布

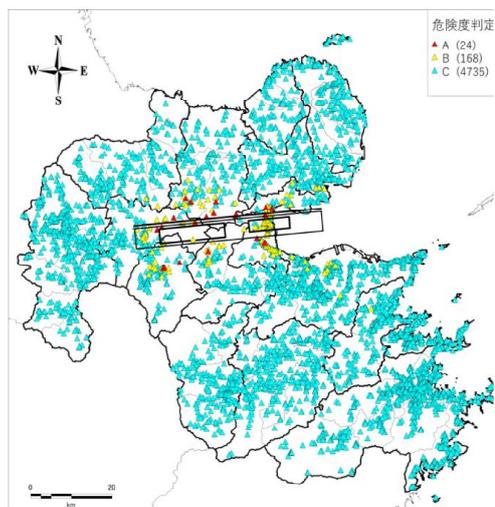
(前回調査結果 (別府湾の地震 (慶長豊後型)))

② 日出生断層帯による地震



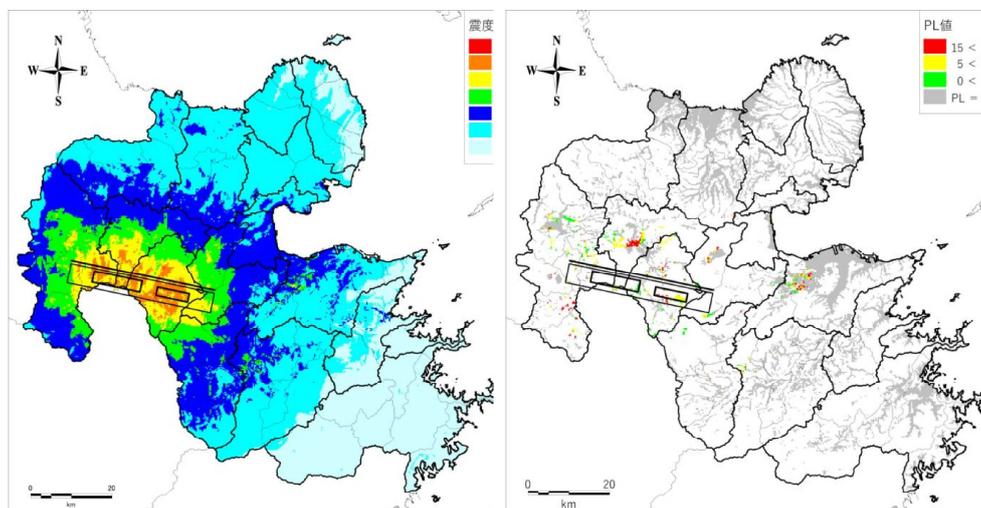
地表震度分布図

液状化危険度分布図



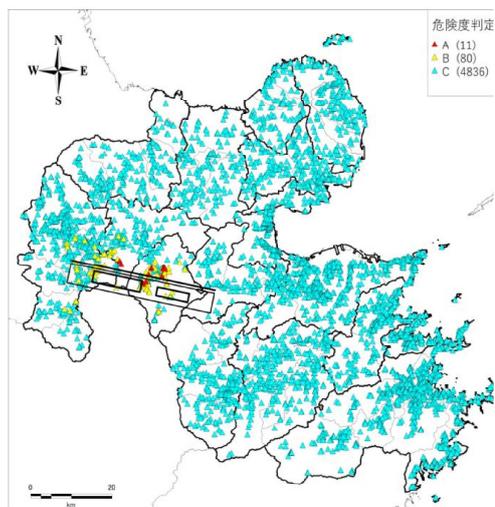
急傾斜地地震時危険度分布

③ 万年山-崩平山断層帯による地震



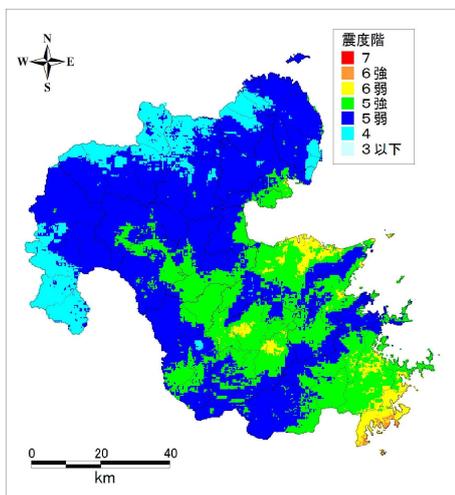
地表震度分布図

液状化危険度分布図

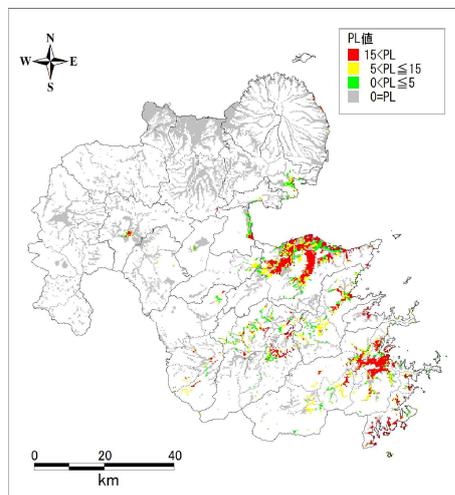


急傾斜地地震時危険度分布

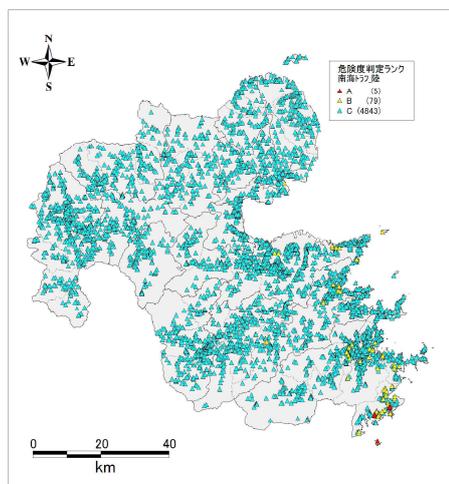
④ 南海トラフの巨大地震（前回調査結果）



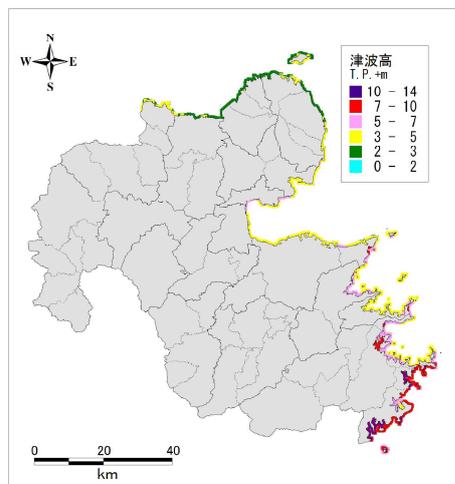
地表震度分布図



液状化危険度分布図

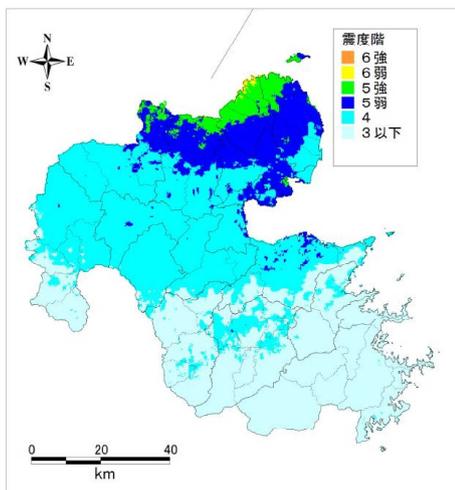


急傾斜地地震時危険度分布

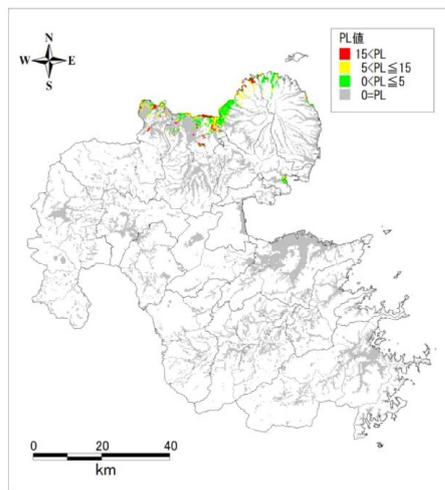


最大津波高分布

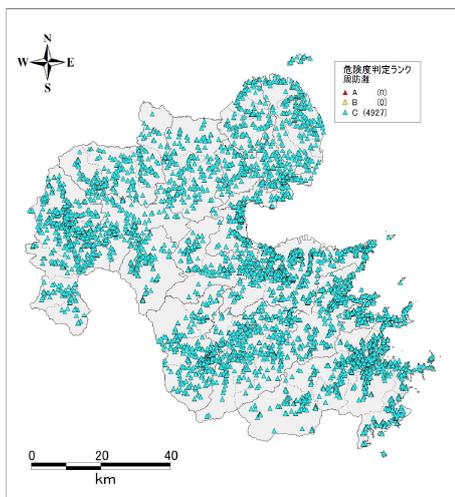
⑤ 周防灘断層群主部による地震（前回調査結果）



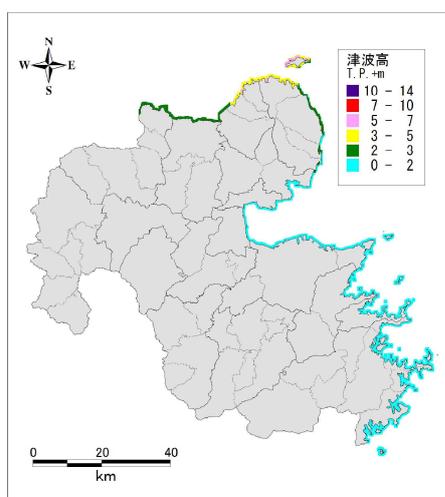
地表震度分布図



液状化危険度分布図



急傾斜地地震時危険度分布



最大津波高分布